

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要					
事業開始年度	平成16年度 23年度		根拠法令・例規等	生きがい創造事業実施要綱、備前市シルバーカード交付要綱、備前市地域支え合い体制づくり事業費補助金交付要綱	
総合計画	大項目	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問	担当課(室)
	中項目	01	やさしさあふれるまちづくり	合	職・氏名
	小項目	04	高齢者福祉	先	電話
事務事業名	01	生きがい創造事業		このシート作成に要した時間	2.0 時間

事業の目的					
対象(誰・何に対して)	生きがい創造の事業：老人クラブ会員 シルバーカード交付事業：65歳以上高齢者 市内の自治会又は町内会、市内を活動区域としている特定非営利活動法人、社会福祉法人、福祉サービス事業者など		Plan	事業の意図する成果とつながらる成果指標を設定	
目的(何のために)	在宅高齢者の知識と経験を生かし、その能力と意欲に応じた生産又は創造的活動によって生きがいの高揚を図ることを目的とする。シルバーカードの発行により、家に閉じこもりがちな高齢者が外出するきっかけをつくる。日常的な支え合い活動の体制づくりを推進することを目的とする。		事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	高齢者の外出や社会参加促進を図り、社会的孤立感を解消し、生きがいを持って生活できるようにする。また、高齢者を取り巻く地域において、見守り活動チーム等の人材育成、地域資源を活用したネットワークの整備、先進的事業の立上げ等の事業を行えるようになる。		Do		

事業の実績					
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明		優先度	
	生きがい創造の事業	65歳以上の高齢者に対して陶芸教室・木彫教室・園芸教室の開講			
	シルバーカードの交付事業	65歳以上の市民に対してシルバーカードの発行			
	地域支え合い体制づくり事業	見守り活動チーム等の人材育成、地域資源を活用したネットワークの整備、先進的事業の立上げ等の事業を行う団体等に対し、予算の範囲内において補助金を交付			

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	444	444	15,975
	必要人員(人)	人	0.07	0.06	0.11
	費用(千円)	千円	923	956	17,006
決算額	国庫支出金	千円	296	296	15,827
	受益者負担金	千円			
	繰入金	千円			
	その他()	千円			
一般財源	千円	627	660	1,179	
受益者負担比率	%	-	-	-	

結果指標		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
参加者数	説明		3教室定員30人の合計参加者数		
結果指標量	人		65	71	60
対前年比	%		-	109.2%	84.5%
活動コスト	円		747,000	956,000	666,000
単位当たりコスト	円		11,492	13,465	11,100

事業の成果		年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
成果指標名	成果指標	目標値(A)	300	300	300	120
		実績値(B)	479	213	60	到達目標値
		達成率(B/A)	159.67%	71.00%	20.00%	120
成果指標設定の考え方・式や説明						
外出の機会が多くなり、高齢者の閉じこもりが解消される。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高低 C
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高低 C
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高低 C

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	生きがい創造事業は、老人クラブの一部の会員のみが継続した利用となっているので、老人クラブの会議等で積極的に周知をし、新規受講者の掘り起こしを行う。						

総合評価			
高齢者が創造的活動を通じて生きがいを持って生活することは、介護予防の観点からも重要であるが、受益者の偏りがみられる。	総合評価	A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高低 C	

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	生きがい創造事業は、受講者の偏りがみられるので、新規受講者の掘り起こしを行う。						



事業の目的やその数値目標がある成果指標を評価しな